



運転席や助手席に人を乗せずに自動走行する乗用車
＝27日、仙台市若林区の旧荒浜小

荒浜で完全自動走行実験

仙台近未来技術実証の一環

東日本大震災の津波で被災し、災害危険区域に指定されている仙台市若林区荒浜地区で27日、車の自動走行などの実証実験が行われた。閉校した荒浜小の校庭では、後部座席にしか人を乗せない完全自動走行が行われ、衛星利用測位システム（GPS）機器やセンサーなどを積んだ車が時速約10キロで3周した。

実証実験は、国家戦略特

区（地方創生特区）の指定を受けた仙台市が近未来技術実証の一環で企画した。

完全自動走行を初めて試したのはベンチャー企業のロボットタクシー（東京）。道路交通法などの規制を受けない校庭を活用した。

中島宏社長は「想定通りに動いた。将来はハンドルやアクセルのない車両も走らせたい」と振り返り、より進んだ実験ができるよう

規制緩和を市側に求めた。

東北大は市道で1人乗りの電気自動車（EV）を自動走行させた。小型無人機「ドローン」も飛ばし、火山噴火時に噴出物を採取する技術を紹介した。

多くの住民が防災集団移転事業に参加した荒浜地区は移転跡地の活用が課題で、市は近くアイデアを民間から募集する。担当者は「交通量の少ない荒浜地区

は自動走行の実験に適しており、専用コースを設ける案もあり得る」と話した。政府は昨年決定した日本再興戦略に近未来技術実証の推進を盛り込み、国家戦略特区の指定地域で実験を進める方針を掲げている。